



平成28年2月

第60号

荒川区立南千住第二中学校

(題字;校長 齊藤 進)

ナンちゃん・ニーくん



心が育つ防災教育 ～ レスキュー部の活動を通して ～

校長 齊藤 進

なぜ、レスキュー部なのか

防災教育や防災への取り組みの必要性を感じたのは、10年以上前にさかのぼります。荒川区に赴任して木密地域が多く消火活動が安易ではない道路事情等、決して災害に強いとは言えない地域性など何か取り組みができないかを考えました。そして、その意を強く決定づけた出来事が東日本大震災でした。避難所で中高生が生活支援に大きな力となっていることがニュースで伝えられ、荒川区の中学生にも防災意識をもたせ、実際に避難所を想定して生活支援等を体験させたいと思いレスキュー部を立ち上げました。



南千住に防災文化を築く(片田敏孝先生の講演に感銘)

東日本大震災の年に徳島県で行われた群馬大学教授であり広域首都圏防災研究センター長などを歴任する片田敏孝先生の講演に感銘を受けました。「生徒は10年経てば大人に、さらに10年経てば親になる人もいる。親から子へ自助・共助の精神を世代にわたって継承し、災害に対する知恵を地域の文化にしていこう」との片田先生の考えに深く感銘しました。講演を聴いて南千住に防災文化を構築することが何より重要と考えました。

荒川区の強み(災害に強いまちづくりは人づくりから)

西川区長は防災の取り組みに尽力され、関係機関と連携して様々な防災訓練を実施するとともに、初期消火に役立つよう町会に赤いバケツを配布したり、全ての中学校に防災部を設立させ、岩手・宮城両県の被災地に中学生を派遣するなどの施策を実行されています。

荒川区は二世帯、三世帯同居家庭も多く向こう三軒両隣文化が根付き下町人情が溢れている地域性があります。こうした特性は防災上、共助の点で大きな力となるはずで、地域の大人と生徒のタテのつながりをつくる絆ネットワーク活動も人と人をつなぐ大切な活動と位置づけています。西川区長の施策も本校の取り組みも防災意識をもつ人づくりによって、いざという時には一人でも多くの命を救うことにつながると考えます。

対処療法ではなく、根本治療(よい行いをするにより、悪い心の芽を摘む)

レスキュー部員は地域の方々に育てられ生き生きと活動しています。地域でのボランティア活動はもちろん、自主的に雪かきをしたりして地域に貢献しようとする姿勢が身についています。また、性格が活発で明るくなったという保護者の声も聞かれます。

いじめ問題は全国的にまだまだ収まる気配はありません。いじめをなくすには心を育てることが大切です。風邪をひいたら薬を飲む(いじめが起きたらどうしよう)といった対処療法ではなく、風邪をひかない(いじめが起きない)体質をつくる根本治療こそが有効です。地域に貢献しようとする生徒の心は育ち人をいじめることはないと思えます。レスキュー部の活動により学校、地域への誇りが芽生え、防災意識が向上し、生徒の心は着実に育っています。

TV東京「すけっち」3/9日(水)午後8時ころ放映予定 レスキュー部の活動が紹介されます。ぜひご覧ください。放送時間が確定しましたらお知らせします。

2年生

鎌倉遠足

2月5日(金)、2年生の校外学習「鎌倉遠足」が行われました。当日は雲一つない晴天で、歩いていると汗ばむほどの好天で、元気に古都・鎌倉の歴史を学習してきました。

この日の目標の一つは、5月に行われる修学旅行を見込んで、終日班で行動することでした。班ごとに南千住駅でチェックを受け、自分たちの力で電車を乗り継ぎ、東京駅を經由し北鎌倉または鎌倉駅に到着しました。現地でも、事前に自分たちで計画したコースを巡りました。残念なことにかの有名な鎌倉大仏は修復作業の最中で見学できず、コースから外さざるを得ませんでした。鶴岡八幡宮や円覚寺や建長寺、源氏山公園、銭洗い弁天など、班ごとに江ノ電や路線バスを利用したり、また、歩いて目的地を目指しました。事前学習が大いに役立ち、鶴岡八幡宮では「ここが実朝が暗殺された大銀杏」「静御前が舞った舞殿かぁ」「八幡宮の八が鳩だ！」などの声が聞かれました。他の見学地も実りある学習になっていました。昼食も自分たちで計画したお店で食べました。名物のシラス丼、超大盛りのカレーライス、ラーメン...、などなど班ごとにさまざまでした。

澄み渡る青空の下、班で協力し、時に迷いながらも自分たちのコースをめぐり、楽しく学習を進めました。この日は他の中学校や観光客などで鎌倉は大混雑。計画したとおりの時間で行動するのはなかなか難しく、バスが来なかったり、予定していた見学地をカットせざるを得なかったり、反対に時間が余ってしまった班もありました。しかし、その時の臨機応変の対応も、修学旅行で大いに役立つはずで、

見学後の鎌倉駅最終チェックに大きく遅れる班もなく、小町通りなどで買ったお土産を手に、鎌倉駅を後にしました。お土産はやはり鳩サブレが大人気。多くの方が手にしていました。帰り道にはちょっとしたハプニングも。鎌倉から乗った電車が湘南～宇都宮ラインの電車で、東京駅を經由せず、新宿まわりで池袋・赤羽方面に行ってしまう班がありました。中には浦和まで行ってしまった班もありました。それでもきちんと連絡をし、遅れながらも全班無事に南千住に到着しました。鎌倉の歴史を学ぶと同時に、自分たちで計画し行動するという貴重な経験ができた1日でした。



まずは北鎌倉円覚寺



報国寺竹の庭



鎌倉の中心鶴岡八幡宮は全班が見学



青空の下、源氏山公園頼朝像

東京駅伝



前を行く選手を追い上げる
南千住二選出の男子選手

2月7日(日)、第7回中学生「東京駅伝」大会が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園を会場に特設周回コースで行われました。この大会は東京都の各市区町村の中学2年生で構成されたチームで争われます。南千住二中からは、2年2組女子1名、男子が2年1組男子2名、2年2組男子1名、2年3組男子1名の計5名が荒川区代表選手として選出され出場しました。5人は2月1日(月)の全校朝礼で紹介され、力強い決意を述べ、全校生徒からは激励の拍手が送られました。

大会は男女それぞれ参加50チーム(23区・26市・1町)、男子は17区、42.195km、女子は16区、30kmの

コースでタスキをつなぎ争われました。女子のスタートは午前10時。選手が号砲とともに一斉にスタートしました。各地区の期待を背負って懸命な走りが続きました。南千住二中から選出された選手も力走り、順位を上げてタスキをつなぎました。

続いて男子のスタート。南千住二中の選手も実力を十分に発揮するみごとな走りでした。アンカーを任されたのは南千住二中選出の2年3組の選手。前を行く選手を追い上げ全力を出し切りました。

荒川区の順位は女子44位、男子34位という結果でしたがよく健闘しました。南千住二中の5選手、そして荒川区各中学校の選手達の健闘に賞賛の拍手を送りましょう。



南千住二中選出の5選手

区連合展示会

1月29日(金)から2月2日(火)まで、荒川区立中学校連合展示会が町屋文化センターを会場にして行われました。区内10校から美術や書写などの優秀作品が一堂に集められ、展示されました。南千住二中からも、各学年の国語科の書写・書き初め作品、技術家庭科、美術科の作品、延べ128名の作品が出品され、ところ狭しと展示されました。

区展に出品されたものの中から特に優れたものは、2月9日(火)~14(日)に行われる第65回東京都公立学校美術展覧会(会場;上野・東京都美術館)に出品されています。この都展には東京都の公立小・中・高校の優秀作品が出品されています。いわば美術作品の都大会といったものです。そこに出品されることは大変栄誉なことです(出品者は最終頁に紹介しています)。

なお、都展の入場料は無料、どなたでも見学できます。この機会にぜひご参観を。

区展・南千住二中の展示ブース



1年生の行事が続きました

う歯予防教室

1月29日(金)5,6校時には、「う歯(虫歯)予防教室」が行われました。



歯ブラシを正しく使う鏡を見ながら



サンスター財団の歯科衛生士の方と歯科医師さんが各クラスについてくださり、健康な歯に関するお話や、歯磨き指導などをしてくださいました。

虫歯ができるメカニズムやそれを防ぐ方法について教えていただきました。クイズ形式のお話もあり、楽しく学習することができました。また、歯磨き指導では、歯ブラシだけでなく歯

間ブラシの正しい使い方も教わりました。普段の歯磨きでは汚れを残したままになっている場合があることを痛感し、今まで以上にしっかり磨こうと決意しました。また、希望者にはフッ化物洗口の体験も行われました。さらに希望者には薬局でフッ化物先口の薬剤がいただける申請書も配られました。

虫歯のメカニズムや歯磨きの大切さ、そしてなにより健康な歯の大切さを身をもって知ることができました。歯科衛生士、歯科医師の皆さんありがとうございました。



健康な歯についてのお話

和太鼓教室

2月3日(水)には、音楽の授業の一環として「和太鼓教室」が行われました。日本の伝統音楽を学ぶための授業です。今年も天王太鼓「つくも会」の方々に指導していただきました。1時間目から4時間目にかけて、クラスごとに1時間ずつ行いました。

まずは基本的な打ち方を練習しました。南千住二中にもつくも会に所属している生徒、他の太鼓サークルに所属している生徒が数多くいます。その人たちはさすがのバチさばき。みんなに手本を示してくれました。

見ていると簡単そうに見えても実際にやってみると上手にリズムをとったり、大きな音を出すことはなかなか難しいことだと分かりました。しかし、交代で何度もたたいていくうちにだんだんコツがつかめてきました。

1時間があっという間でしたが、時間が終わる頃には「荒川音頭」に合わせて心地よく、力強い太鼓の音がたくさん響き渡りました。つくも会の皆さまありがとうございました。



しだいに上手に



基本の打ち方を学ぶ



さすがのバチさばき 1-4男子

栄養士・鯛のさばき体験



街の先生教室

2年生の鎌倉遠足と同じ日、2月6日(金)の午後、1年生は「街の先生教室」

を行いました。社会で活躍する職業人に直接お話を聞く機会でした。この日は講師として、荒川消防署の消防士さん、清里移動教室にも同行していただいたカメラマンさん、旅行会社の添乗員さん、パラリンピックの選手の義足なども手がける義肢装具士さん、南千住二中の給食の食材を提供していただいている水産会社の栄養士さん、さらに看護師さん、キャビンアテンダントさんの7業種、合計9名もの方々にご来校いただきました。

全体会でご挨拶をした後、分科会に分かれ、この中から希望する2業種の方からお話を聞くことができました。どの方も社会の第一線で活躍されており、臨場感あふれるお話で、

ただただ驚きと感心の連続でした。分科会では消防士の装備を実際に装着させていただいたり、実際に鯛を下ろしてみたりという体験もさせていただきました。お話や体験を通し、それぞれのお仕事での苦労ややりがいなどを感じることができ、将来の自分の職業について考えるととても良い機会にもなりました。大変貴重な機会を与えて下さった講師の皆さま、ありがとうございました。



キャビンアテンダント



看護師



義肢装具士

人形浄瑠璃鑑賞教室

2月9日(火)、荒川区立中学校「人形浄瑠璃鑑賞教室」が行われました。普段中学生がなかなか見ることが少ない日本の伝統芸能である人形浄瑠璃を鑑賞できる機会を荒川区が与えてくれました。南千住二中は、午前の部に1年生が参加しました。

人形浄瑠璃は文楽ともいわれ、三味線にあわせて義太夫の語りですすめられる人形劇です。この日は乙女文楽で、演目は「二人三番叟」と「酒呑童子」でした。女性一人で大きな人形を操るすごさに見とれ、またその内容も大変おもしろく、1年生は真剣に見入っていました。事前に音楽の授業などで、その成り立ちや歴史について教わっていたことも興味につながりました。途中で体験コーナーもあり、1年1組男子が南千住二中の代表として舞台上に上がりました。1年生は、鑑賞態度が良かったことに加え、行き帰りの団体行動も大変しっかりできました。



酒呑童子
戻り橋の段



体験コーナー・1年1組男子

3年生は...

進路選択本番

3年生は進路選択の最終段階を迎えています。2月2日(火)には、都立高校推薦入試の発表がありました。

この発表で17名が合格しました。また、先に行われた私立高校の推薦入試や他県の私立高校の合格者を合わせると、すでに合計約40名が合格を勝ち取りました。

職員室や校長室には続々と合格の報告者が訪れました。しかし、入試はまだまだ序盤戦です。これから2月10日(水)を皮切りに、都内私立高校の一般入試、2月24日(水)の都立高校一次・分割前期入試と続きます。

3年生は「受験は団体戦」というスローガンを掲げ、合格が決まった人も、最後の一人の進路が決まるまで、全員で取り組む姿勢をもって臨んでいます。

芭蕉の大橋渡り

2月7日(日)、「芭蕉の大橋渡り」に南千住二中生が参加しました。このイベントは、江戸時代に松尾芭蕉が旅したおくのほそ道の出発点が千住大橋とされることにちなんで荒川区が主催して行われるものです。昨年度から始まり今年度が2回目になります。南千住二中の生徒も第一回から参加しています。今年度は2年生4名、1年生6名の計10名が参加しました。

イベントの内容は、当時を彷彿とさせる衣装に身を包み、素盞雄神社に集合し、千住大橋を渡りながら地域の美化活動をしたり、芭蕉にちなんで俳句をしたためたりしました。

南千住二中生も、本格的な芭蕉の装束や町娘姿に着付けをしていただき、先頭を切って活動しました。大橋を渡りながらゴミを拾い、対岸に着くと俳句を考えたりと、楽しく活動することができました。西川荒川区長さんや地域の方々もその姿に目を細めていらっやいました。地域の歴史をたどり、地域をきれいにしながら、当時を思い描きながらの活動は、とても清々しく格別の思いでした。

〈芭蕉の大橋渡り参加者〉

- 2年2組女子2名、2年女子2名、
- 1年3組男子1名、女子5名、
- 1年4組男子1名

大橋の上では美化活動



芭蕉の装束に身を包み



提灯を掲げ先頭を歩く南千住二中生

レスキュー部

ジュニア防災検定 受検者全員 41名合格

レスキュー部は「ジュニア防災検定」に挑戦しました。このジュニア防災検定は、防災検定協会が主催しているもので、今年度、荒川区全公立中学校に「防災部」が設置されたことを受け、荒川区が中学生のために受検の機会を与えてくれたものです。

南千住二中レスキュー部は、その先駆けとして、スーパーレスキュー部員をはじめ41名が1年生は中級、2,3年生は上級を受検しました。検定には事前課題と事後課題も必要です。事前課題は家族と相談しながら、個人個人が提出しました。また、事後課題は個人または部員で少人数のグループをつくり取り組みました。

検定日は10月15日(木)、受検者全員が真剣に取り組みました。結果は補充課題に取り組んだ部員も含め、中級22名、上級19名、受検者全員が合格。レスキュー部が新たな成果をあげました。

(ジュニア防災検定合格者)

中級(1年生)

1組 男子1名、女子2名 2組 男子2名、女子3名
3組 男子4名、女子3名 4組 男子3名、女子4名

上級(2,3年生)

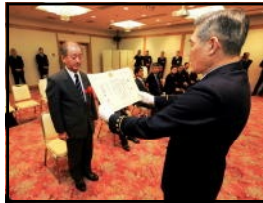
2年1組 女子1名 2組 男子2名、女子4名
3組 男子2名、女子5名
3年1組 男子1名、女子3名 3組 女子1名



授与されたパッチ(中級)

校長先生が消防総監賞授与式に出席

南千住二中レスキュー部が「消防総監賞」を受賞したことはこれまでも紹介してきましたが、その授賞式が1月22日(金)東京都庁で行われました。その授賞式に齊藤進校長先生が出席し、消防総監から表彰状が授与されました。東京都のみならず全国から注目を浴びる南千住二中レスキュー部。この受賞は、単に南千住二中レスキュー部が表彰されるだけでなく、そのことによって中学生の防災活動が広く世に認知され、都民、しいては日本全体にその有用性が知れ渡り、このような活動が広まることが期待されています。



部活動等の活躍

《吹奏楽部》 東京都中学校アンサンブルコンテスト **銀賞**

《サッカー部》 荒川区民大会中学生の部 **優秀選手賞** 2年2組男子

《ソフトテニス部》 荒川区一年生大会 **優勝** 1年2組女子2名ペア

荒川区冬季研修大会 男子団体 **部準優勝** 1年女子団体 **部第3位**

《バレーボール部》 荒川区冬季大会 **Bブロック1位**

《都展出品者》

	<国語科>
書き初め	3年3組女子1名、1年1組女子1名
	<美術科>
観光ポスター	3年1組女子3名、3年2組男子1名、女子1名、3年3組女子1名
生き生きしている自分	2年1組女子1名、2年2組女子2名、2年3組女子1名
粘土で作った空き缶	1年1組女子2名、1年2組女子2名、1年3組女子1名、1年4組女子1名
	<技術・家庭科>
木製ラック	2年2組女子1名
カラフルボール	2年3組女子1名
クロスステッチの巾着	3年2組女子1名
ペットボトルケース	2年1組女子1名

南千住マスターのコーナー

南千住の交通と産業 No.9

『南千住駅 ②日比谷線つくばEX線』

地下鉄
日比谷線

南千住駅には、JR常磐線の他に営団地下鉄日比谷線、つくばEX線(エクスプレス)線が乗り入れています。営団地下鉄日比谷線は、1961(昭和36)年、南千住〜仲御徒町、わずか3.7kmで開業します。南千住は日比谷線誕生時には始発・終着駅だったのです。当時は帝都高速交通営団という会社が運営していました。その後、南は築地・霞ヶ関・六本木・中目黒、そして北は北千住・東武線へと路線を延ばし、中目黒〜北千住間が地下鉄日比谷線となりました。正式名称は「2号線日比谷線」です。南千住〜北千住間は隅田川・荒川を越えるため地上線になっています。都心へ直接つながる日比谷線南千住駅の乗降客数は年々増加し、平成26年の1日の乗降客数は27,571人と、JR線、つくばEX線を大きく上回ります。ラッシュ時には2〜3分おきに列車が到着し多くの乗客を運んでいます。南千住駅に乗り入れるもう一つの路線は、つくばEX線(エクスプレス)線です。この路線は、2005(平成17)年に秋葉原〜つくば間5.3、8kmを結ぶ路線として開業しました。関東地方の主要幹線の中で最も新しい路線です。当初の計画路線名は「常磐新線」でしたが、一般公募で「つくばエクスプレス線」(通称TX)となり、筑波学園都市から直接都心へと乗り入れられるこの路線は、沿線住民の長年の希望を叶える路線でした。自動列車運転装置(ATC)による自動運転を行い、運転士は乗務しますが、車掌は乗務しないワンマン運行です。時速130kmという高速運転で、つくば〜秋葉原間を最速45分で結んでいます。南千住駅の乗車人数は1日5,000弱と、JR線や日比谷線に比べると少ないですが、常磐・茨城方面からの多くの人が利用しています。

南千住駅は歴史あるJR線、都心への大動脈である地下鉄日比谷線、そして最新のつくばEX線と、人々の暮らしを支える重要な交通機関の駅として日夜活躍しています。

撮影；1年2組男子